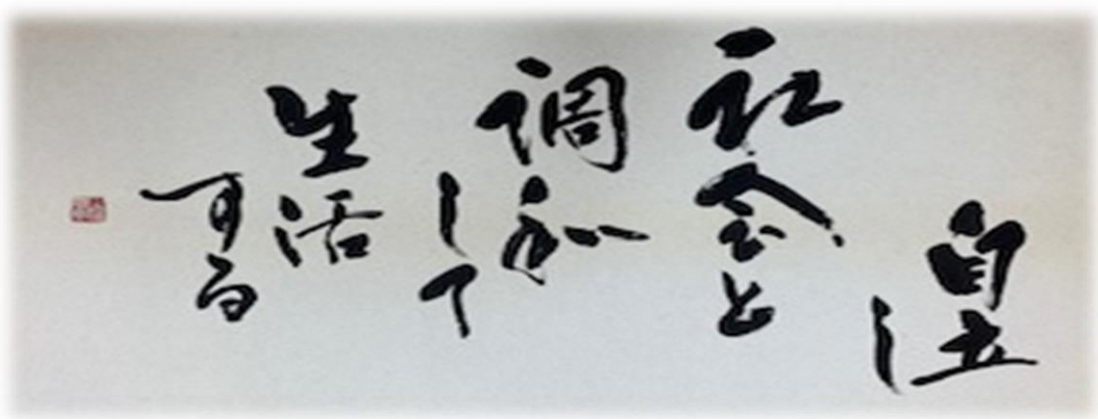


喜多原だより

NO. 80

令和5年6月吉日発行



新園長ご挨拶

園長 坪倉 嘉隆

大山に向かって通勤!! 見慣れない通勤風景に不思議さと荘厳? 偉大? パワースポット? 何かよくわかりませんが、特別感を感じながらの通勤が始まりました。

この4月から喜多原学園の園長として着任しました坪倉と言います。喜多原学園での勤務は初めてで、しかも施設長というとても責任重大な役割を担うことになりました。今までは児童相談所での勤務が長く、児童相談所の職員として喜多原学園には来たことはありませんでしたが、喜多原学園の職員として勤務をしてみると、これもまた違った風景に見え、不安も高まりました。ただ、勤務してみると、しっかりとした安心のできる職員に囲まれていることがわかり、私自身の不安は軽減されました。あとは私の頑張り次第です。早く職場にも慣れていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

さて、当園は、年度当初は新一年生も含め中学生のみでの生活でスタートしました。今年は桜の開花も早すぎた。ただ、桜の花のピンク色も4月らしくてよいですが、葉桜の緑もさわやかで、これから「何か始まる」といった期待が感じられる色でこれはこれで入学式にふさわしい景色だったかなと個人的には感じています。入学式や着任式で挨拶をさせていただきましたが、今、在籍している児童はみんながしっかりと話を聞いてくれていました。児童らの姿を見て、新年度を迎えて新たな学年に進級した緊張感と意気込みを感じました。今後の生活に大いに期待したいと思えました。

新年度になり、児童にとっても職員にとっても新たな生活が始まりました。近年はコロナの感染拡大を懸念して、児童の活動においても制限され、学園行事も中止にせざるを得ないことが多々ありましたが、感染者数の減少や国の方針の変更もあり、行動規制も緩和されてきました。このことによ

り、今後は児童らに今まで以上の様々な経験や体験を計画できると思われます。

当園では、各個人では、日々の生活の中で、分校での授業や寮に戻ってからの宿題の実施などの学習や朝起き、夜寝る、食事、入浴などの生活リズムの定着、音楽を聴く、買い物に行くといった余暇の過ごし方のほか、身

だしなみ、他の児童や職員とのやりとり、自分の長所や得意なことを見つけるといったことも意識した活動を行っています。集団の取り組みとしては、食育の意味合いも含めて、米作りをしており、9月の収穫に向けて5月に田植えを行います。中国地区の児童自立支援施設の野球大会やバレーボール大会、駅伝大会といった各種スポーツの大会が予定されています。特に7月に行われる男子の野球大会は今年度は当県が開催県として行いますので、ぜひ応援にお越しただければと思います。このような活動のほかに、大山登山も予定していますし、近年、中止が続いていた園遊会や地域との交

流会も再開を検討しているところで、児童らにより多くの経験や体験の場が提供できそうです。これらの活動では、生活スキルの獲得や向上、よりよい人間関係、将来の自己像の獲得につながるかと考えています。また、チームワークや達成感、成就感が得られるものとも考えています。

このような行事に取り組むにあたって職員は、当園の理念を念頭に、子どもらが「安心」して生活できる場の提供、児童自らが学園の児童であるという「帰属意識」を得られる集団活動、「貢献感」を得ることで自信をつけ、何事にも負けない心を身につけることを意識して日々支援を行っています。当園が子どもが安心して、認められ、そして頑張れる場でありたいと考えています。

最後になりましたが、児童らはまだ成長の途中段階です。いろいろと失敗も繰り返すことでしょう。失敗を失敗だけに終わらせず、少しでも成長につながっていくよう、支援していくつも

りです。児童らが一回りも二回りも成長していく姿を保護者をはじめ児童と関係する方々と一緒に感じ、喜び合いたいと思っています。このことを実現するためには、保護者や児童と関係する方々のお力添えも必要です。今までも当園の方針や取り組みについて十分ご理解、ご協力いただいております。十分ご理解、ご協力いただいております。十分ご理解、ご協力いただいております。十分ご理解、ご協力いただいております。



令和5年4月10日、いずみ分校の入学式が行われました。今年度の新入生は3名でした。制服を着ると、すっかり中学生らしくなり、背筋がピンと伸びた姿が印象的でした。中学校生活での活躍が非常に楽しみでです。

新入学生代表として、男子児童が誓いの言葉を述べました。紹介します。

誓いの言葉

大山の緑も美しく、暖かな春がやってきました。

寮の職員の皆さん、いずみ分校の先生方、先輩の皆さん、どうぞよろしくお願ひします。

中学校生活では、特に国語の学習をがんばり、漢検の合格を目指したいです。また、野球を一生懸命練習して、上手になりたいと思います。

これからは先輩方を見習い、よりよい中学生になれるように努力を続けたいと思います。これからもよろしくお願ひします。

新入児童代表 M・Y

いずみ分校入学式

学園行事 観桜会

例年、4月の始まりは桜の花を見ながら観桜会を行っています。しかし、ここ数年は、新型コロナウイルス感染拡大により、学園全体で行事を行うことが難しくなりました。自粛期間は、感染対策をしながら、寮別で食事をする程度に留めていました。

今年度は久しぶりに、学園児童、職員、分校先生が一同に会し、桜の下でバーベキューをしながら、楽しい時間を過ごしました。新年度で新たなメンバーになっているため、一人ずつ自己紹介をする時間も持ちました。初めての人と関わることは不安もありますが、自己紹介を聞いて、「あの先生とも話をしてみたい」と前向きな気持ちになった児童もたくさんいました。

今年度は、このような学園全体の行事が制限を緩和して実施できそうです。地域の方や、関係機関の方と

の交流も再開できる見込みです。で、児童の体験機会が広がることに期待をしています。



山の恵み in 学園

ご存じのとおり、喜多原学園は自然豊かなところです。

春には、学園敷地内の、通称「谷」で、わらび採りをするのが恒例になっています。学園に来て初めてわらびを見る児童もいます。それでもわらび採り開始後しばらくすると、慣れた手つきで摘み取っていくようになります。

ビニール袋いっぱいになったわらびは、分校の先生が下処理をしてくださり、おいしく調理をしてくださりました。翌日には、みんなでわらびパーティーをして、旬の味を堪能しました。

わらびの他、敷地内で筍も掘りまです。宝探しのように、児童も職員も夢中になって、春を感じています。



令和5年度着任職員

課長補佐 小泉 浩二

令和5年の4月から、喜多原学園で勤務をすることになりました。平成

16年に勤務をしてから久しぶりの勤務となります。分校の教室や体育館が新しい建物になっており、当時とはまた違った印象を受けております。喜多原学園から眺める大山の景色は当時と同じでも雄大で美しい眺めで、喜多原学園の桜や山菜やたけのこの等の季節の食べ物など当時から月日が経ちましたが、当時とは変わったもの変わらないものを感じながら勤務をしております。現在の喜多原学園の状況を理解しながら入所児童のみなさんの自立の支援をしていければと思います。よろしくお願いいたします。

児童自立支援専門員 谷野 純麗
今年度より、喜多原学園に赴任しました谷野と申します。喜多原学園の前は、米子児童相談所で勤務していました。運動が苦手な私は、喜多原学園で運動日課についていくことができたのかという不安と、児童に、より近い存在の大人として支援を行う立場になることの緊張がありました。

児童と日々の生活をともにする中で、児童から寮のルールや日課の過ご

し方、どんな思いで生活を頑張っているかなどを教えてくれ、非常に有難く感じるとともに、児童の頑張りにも「すごいなあ」と思う毎日です。

寮職員として、まだまだ未熟な自分ですが、運動をはじめ、苦手なことに対しても一生懸命頑張ること、児童が何か困難にぶつかった時には、児童の意見を聞きながら一緒に考えていける存在になりたいと思っています。

一つの大人のモデルとなれるよう、児童と一緒に一歩ずつ成長していきたいと思っています。これからよろしくお願いたします。

〜児童自立支援専門員 福本 涼葉〜

令和5年4月に鳥取療育園から異動してきました。入庁してから初めての異動、かつ、初めての共同生活でも緊張していましたが、学園の子どもたちや先輩職員、分校の先生や関係者の方々のあたたかさに救われ、前向きに日々を過ごすことが出来ており感謝しています。こちらに勤めて一カ月になりますがここでは子どもたち

の葛藤に立ち会う機会が多くあると感じます。あわせてこの葛藤はこれから大人になるために必要な、大切なものなのだろうと感じます。自身の力量不足で、その時々には明確な答えを提示してあげることが難しいこともあります。これから子どもたちが大人になることに希望を持てるような関わりや後押しができたらいいなと思っています。子どもたちが、どんな時にどんなことを思うのか、どんなことが好きでこれからどうなっていきたいのかなど、子どもたちと沢山話をしていきたいです。これからよろしくお願いたします。

〜児童生活支援員 須美 結季〜

令和5年4月から児童生活支援員として喜多原学園で勤務しております。

ここに来るまでの3年間は保育士として働いており幼児までの子ども達とは関わってきましたが、関わる年齢が大きく変化し戸惑いや不安な気持ちもあります。しかしながら、子ども達の方から温かく受け入れ、寮生活

のことを教えてくれたことで少しずつ新しい環境での生活に慣れることができてつづつあります。

ここでの生活はまだ一か月程しか経っていませんが、喜多原学園にいる子ども達はそれぞれ、ここで生活していく上で目標を決め、自らの課題について真摯に向き合いながら過ごしておられるのだと感じています。

そのような子ども達と共に学園での様々な生活や体験を楽しみながら、子ども達と共に私自身も成長していくことができるように、また、子ども達の気持ちに寄り添うことができるように精一杯努めていきたいと思っています。

米子市立福生中学校

いずみ分校

〜英語科担当 松本 広美〜

澄んだ空気、さわやかな風、木々の芽吹き、小鳥のさえずり、静かな校舎、そして何より、素直にがんばる生徒一人ひとり。

この4月に本校より転勤した私は、最高の環境に身を置ける自らの幸せを、日々噛みしめています。

さて、私が師と仰ぐ内田樹氏と養老孟司氏が、「都会と大人」に対して語るのが、「自然と子ども」です。師によれば、前者は「ああすればこうなる」ものであり、後者は「予測しがたい」ものです。いずみ分校は後者のカテゴリーに属すると言えますが、ならば「子どもは予測しがたい」とはどういうことか述べます。

私の座右の銘は「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」です。しかし人は年齢を重ねると、次第に考え方が凝り固まって、自身自身を変えることが困難となりがちで、同時に、変更可能な未来も減少します。ところが、子どもは可塑性に富んだ原石そのものであり、しかも潤沢な未来という時間があります。つまり、現在の姿からは予測しがたい形へ変貌する可能性を多に秘めており、それはあたかも、原石が磨かれて宝石となる姿に似ています。

人の成長過程では、磨くのも自分、

そして磨かれるのも自分です。教師は子どもに寄り添い、磨き方を支援するのみです。どんな宝石となるか、こればかりは、なかなか想像しがたいところがあります。しかし、分らないからこそその楽しみがあり、これが正に、教師という職業が持つ醍醐味でもあります。私が36年間、この職にある最大の理由もそこにあります。

そして7年目の今年、私にこの場で与えられた、子どもとの出会いと時間。これは何にも代えがたい貴重なものです。一人ひとりがどんな宝石となるか、私には少なくなった未来を楽しみに、今日も子どもたちと過ごします。学園のみなさま、まだまだ未熟な私ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

〓国語科担当 種田 文子〓

今年度、境港第三中学校から転任してきました。前任校では4階の教室から船の出航の笛の音がかすかに聞こえていましたが、今年度からは鳥のさえずりを心地よく耳にしながら授業をしています。教室からの風景にも癒やされて気持ちよく授業ができております。まだ慣れないことも多くありますが、生徒たちの、それぞれの目標や進路の実現の手助けができるよう寄り添っていききたいと思えます。よろしく申し上げます。

〓数学科担当 山根 壮平〓

本校からいずみ分校への異動が決まってから、いずみ分校の生徒たちに出会うことを楽しみにしていました。生徒たちに出会ってみると、礼儀正しいふるまい、授業に熱心に取り組む姿が印象的でした。数学は苦手と感じる生徒も多いのですが、熱心に取り組む生徒たちの気持ちに伝えるために、生徒に寄り添い、わかりやすい授業を心がけていきたいと思えます。また、体を動かすことが好きなので、運動や作業をする時間も生徒たちと楽しみたいと思えます。いろいろな活動を通して、人とのつながりを大切にすること、自分自身と向き合い努力を続けることを生徒たちに伝えていきたいです。まわりの人に優しく接していると自分にとって居心地の良い空間がつかれていきます。そのような居心地

の良さを感じることで、まわりの人と前向きに良い関わりをつくっていきうとする心を育てられたらと思えます。そして、生徒たち一人一人がそれぞれの長所を伸ばしたり、課題を克服したりしていくために、精一杯取り組んでいきたいと思えます

〓並里 育子〓

こんにちは。福生中学校いずみ分校1年目の並里育子です。教科は社会ですが、子どもたちとは異なる教科でも一緒に勉強できるのを楽しみにしています。よろしく申し上げます。

好きなことはスポーツ観戦。テレビもよく観ます。映画も！…そしてバドミントンを少し。

まずスポーツ観戦と言えば、WBCの感動いまだ冷めず。大谷翔平のバントに号泣し、決勝戦のアメリカ戦では、9回まさかの：ゲッツ後、トラウトの6球目スライダー（スウィーパー）で三振！！「巨人の星」からの野球ファンとしては、こんな現実には遭遇できないなんて…。人が一生懸命頑張る、その先にはもう「不可能」なんて無いの

かも、と感じました。これからの未来を生きていく子どもたちの辞書にも、きっと「不可能」の文字は無いのかもしれない。

そして映画と言えば、「スラムダンク」。長い間、家に眠っていた3冊を再び取り出して読み、いざ映画館へ。推しの「流川楓」の出演は少なかったものの、懐かしさとストーリーに号泣。野球・バスケットに限らず、これだけ感動するスポーツ。喜多原学園の子どもたちもスポーツを通して心も体も大きく育ってくれると信じています。

今年、女子バレー部、男子野球部ともに全員で優勝を目指してください。応援しています。





9月 稲刈り



9月 大山登山



11月 駅伝大会



10月 バレーボール大会



12月 クリスマス会



11月 更生保護女性会交流

令和5年度年間行事計画

- | | | | |
|-----|---------------|-----|------------|
| 4月 | 観桜会 | 5月 | 春の遠足 田植え |
| 7月 | 野球大会（鳥取県開催） | 8月 | 海水浴 |
| 9月 | キャンプ、大山登山 | 10月 | バレー大会 |
| 11月 | 駅伝大会、創立記念マラソン | 12月 | クリスマス会、餅つき |
| 1月 | とんど、スキー体験 | 2月 | スキー体験 |

※変更の可能性あり。

教職員の異動

学園

(令和5年3月31日付)

退職	現業技術員（会計年度任用職員）	吉川 文康
転任	園長	大下 幹男（米子児童相談所）
	男子寮長	尾澤 理子（総合療育センター）
	児童自立支援専門員	光宗 哲平（米子児童相談所）
	児童自立支援専門員	西尾 弘規（米子児童相談所）
	児童自立支援専門員	村上 悠果（鳥取療育園）

(令和5年4月1日付)

着任	園長	坪倉 嘉隆（福祉相談センター）
	課長補佐	小泉 浩二 （西部総合事務所県民福祉局地域福祉課）
	児童自立支援専門員	谷野 純麗（米子児童相談所）
	児童自立支援専門員	福本 涼葉（鳥取療育園）
	児童生活支援員（会計年度任用職員）	須美 結季

分校・分教室

(令和5年3月31日付)

退任	講師	青笹 博
	講師	向田 真由美
転任	教諭	永見 剛（米子市立福米中学校）
	教諭	尾崎 朱美（米子市立福米中学校）
	講師	太田 瑞穂（米子市立福生西小学校）
	講師	須藤 文江（米子市立住吉小学校）

(令和5年4月1日付)

着任	教諭	松本 広美（米子市立福生中学校）
	教諭	種田 文子（境港市立第三中学校）
	教諭	山根 壮平（米子市立福生中学校）
	講師	並里 育子（米子市立東山中学校）

後援会報告

【令和5年度 後援会役員】※敬称略・順不同

会長	赤沢 亮正	委員	関山 公郎	藤原 公仁
副会長	上森 英史、本田 修	委員	安次 里絵	錦織 剛一
事務局長	馬詰 俊哉	委員	坪倉 嘉隆	保坂 葉子
監事	中川 正純	委員	永田 博文	小谷 智志
監事	松永 芳久	委員	谷野 純麗	

昨年度、多くの方に後援会へ入会いただきました。後援会費は、スポーツ活動費、生徒会活動、スキー・スノーボード体験費等に使用させていただきました。ありがとうございました。今後も後援会活動へのご理解とご協力をよろしく申し上げます。

今年度後援会総会は、時期をずらして開催予定です。会計報告等は、後援会総会開催後、別の機会に報告させていただきます。

児童在籍情報

	小学生		中学生		中卒生		計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
R4 4月1日	2人	0人	4人	2人	0人	2人	8人
R4 10月1日	3人	1人	6人	3人	0人	0人	13人
R5 4月1日	0人	0人	7人	3人	0人	0人	10人
R5 6月1日	0人	0人	9人	4人	0人	1人	14人

編集発行

鳥取県立喜多原学園

鳥取県米子市泉706

TEL 0859-27-1101

FAX 0859-27-1611

編集後記

新型コロナウイルスの感染法上の分類が、5類に引き下げられ、マスクを外して過ごす機会も増えました。今年度は、学園や分校行事も制限を緩和して実施することができそうです。子どもたちが多くの経験を通して、豊かな心を育んでいくことを願い、支援をしていきます。

今年度は、学園ホームページも更新機会を増やして児童の様子をお伝えしますので、ご覧いただけると幸いです。